

モモ、ナシ、リンゴなど主要果樹は、開花～満開が平年より遅れたことから、モモなどでは果実の生育に遅れが見られます。今後は、仕上げ摘果や新梢管理が中心となりますが、果実や新梢の生長に合わせて計画的に実施してください。

1 気象概況（5月4～6半旬：果樹研究所）
 5月4～6半旬の平均気温は、4半旬が18.2 で平年より1.8 高く、5半旬が17.2 で平年並み、6半旬が15.7 で平年より2.1 低く経過しました。この期間の降水量は56.5mmで平年の111%でした。

2 土壌水分（5月31日現在：果樹研究所）
 土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培リンゴほ場）は、深さ20cmが1.9、深さ40cmが1.7、深さ60cmが2.0で、適湿の範囲となっています。

3 生育概況（果樹研究所）

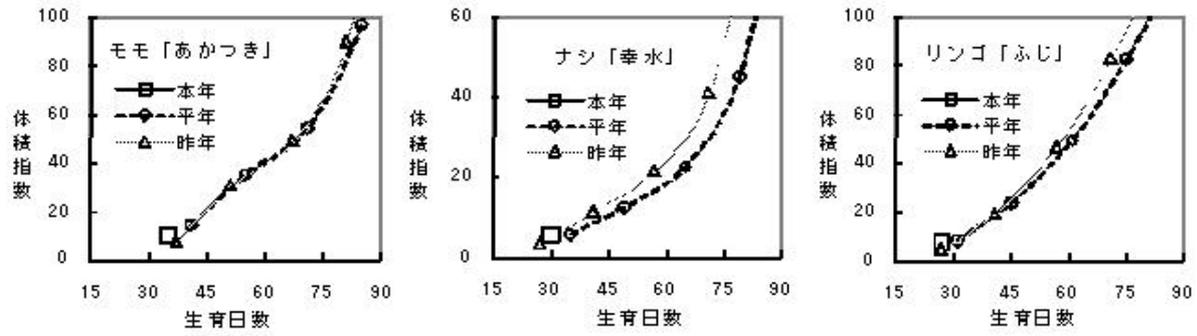


図1 主要品種の果実肥大（6月1日現在）

(1) モモ

ア 果実肥大（6月1日現在）
 果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が30.8mmで平年比93%、側径が22.8mmで平年比88%、「ゆうぞら」は縦径が30.0mmで平年比88%、側径が20.7mmで平年比83%と小さく、果実の肥大は遅れています。

イ 新梢生長（満開後30日現在）
 「あかつき」の新梢生長は、新梢長が平年比98%とほぼ平年並み、展葉数は平年比86%と少なく、葉色は平年比97%とやや淡い状況です。

ウ 双胚果と核障害の発生（満開後30日現在）
 双胚果発生率は、「あかつき」が0.8%、「ゆうぞら」が4.2%と平年より少ない状況です。また、「あかつき」の核障害は、核頂部の亀裂の発生率が19.2%と少ない状況です。

エ 発育予測（6月1日現在）
 今後の気温が平年並みに経過した場合、「あかつき」の硬核期開始は6月16日頃で平年より5日程度遅い見込みです。また、収穫期は平年より6日程度遅れる見込みです。

(2) ナシ

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が20.4mmで平年比99%、横径が23.2mmで平年比102%、「豊水」は縦径が22.3mmで平年比99%、横径が23.4mmで平年比103%で、ほぼ平年並みの状況です。

イ 新梢生長（満開後30日現在）

「幸水」の新梢生長は、新梢長（予備枝）が平年比143%と長く、葉枚数が平年比121%と多く、葉色は平年比105%と濃い状況です。「豊水」は新梢長（予備枝）が平年比138%と長く、葉枚数が平年比115%と多く、葉色は平年比97%とやや薄い状況です。

（3）リンゴ

ア 果実肥大（6月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が27.9mmで平年比98%、横径が27.4mmで平年比95%と果実の肥大は遅れており、「ふじ」は縦径が26.7mmで平年比99%、横径が23.9mmで平年比98%とほぼ平年並みの状況です。

イ 新梢生長（満開後20日現在）

「つがる」の新梢生長は、新梢長が平年並みで新梢停止はやや遅れています。「ふじ」は、新梢長が平年比90%と短く、新梢停止はやや早い状況です。

ウ 結実状況

「つがる」の結実果そう率（全頂芽に対して結実した頂芽の割合）は64%で平年よりやや低く、「ふじ」の結実果そう率は49%で平年より低い傾向でしたが、いずれも結実量は十分確保されています。

（4）ブドウ

ア 新梢生長（発芽後40日現在）

「巨峰」の新梢生長は、新梢長が平年比132%で平年より長く、展葉数も平年比126%と多い状況です。

イ 発育予測（6月1日現在）

今後の気温が平年並みに経過した場合、「巨峰」の開花始めは6月11日頃、満開は6月14日頃で平年より4～5日遅いと予測されます。

4 栽培管理上の留意点

（1）モモ

ア 仕上げ摘果

本年の硬核期開始は6月16日頃（果樹研究所）と予想されるので、この頃までを目安に仕上げ摘果を実施しましょう。摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減します。

本年の「あかつき」は、双胚果、核障害ともに平年より発生が少ない状況となっていますが、園地によっても発生が異なるので、園内の状況を確認した上で摘果を実施しましょう。双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果で着果量をやや多めとし、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。

イ 新梢管理

5月下旬～6月中旬は新梢の生育が盛んな時期であり、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混雑しやすくなります。特に、若木などは徒長枝の発生により樹形が乱れやすく、徒長枝を放置した場合は、冬季のせん定量が多くなるため樹の拡大が遅れるばかりか、切り口からの枯れ込み等により樹の寿命が短くなります。このため、樹冠内部や主枝、亜主枝の基部、側枝の基部など徒長しやすい新梢は早めに摘心や夏季せん定を実施し、健全な樹体管理に心がけましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わない

か、最小限とします。

ウ 樹勢回復対策

着果量が多い園地や新梢伸長が劣り、葉色が薄いなどの樹勢低下が認められる園では、早めの摘果に心がけるとともに、着果数を制限し新梢の生育を促しましょう。また、樹冠の上部に空枝を積極的に配置し、葉面積の確保により樹勢の回復を図りましょう。

(2) ナシ

ア 仕上げ摘果

予備摘果が終了し、仕上げ摘果作業に入り、満開後50日頃までに実施しましょう。仕上げ摘果では、最終着果量の2～3割増とし、樹勢を考慮しながら着果量を調節します。

イ 新梢管理

満開後45～60日頃を目安に新梢管理を実施しましょう。新梢管理は、側枝基部に発生した新梢を中心に、主枝・亜主枝の背面から発生した新梢などをせん除します。側枝の更新候補となる新梢の発生が少ない場合は、側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し利用します。また、予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに発育良好な新梢を残して1本に整理します。

(3) リンゴ

予備摘果が終了し、仕上げ摘果に入り、満開後60日頃までに実施しましょう。仕上げ摘果では、小玉果や変形果、障害果、病害虫果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実、長果枝の果実などを摘果し、形質の良い果実を残します。仕上げ摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果、「さんさ」「緋のあづま」「ジョナゴールド」「陽光」「王林」「ふじ」は4頂芽に1果を目安に実施します。また、結実の少ない園地では着果数の確保を優先し、不良果そうを中心に最小限度の摘果を行います。果形の揃いが悪い園地では、仕上げ摘果でやや多めに着果させ、修正摘果で調整しましょう。

(4) ブドウ

開花～満開は平年より4～5日遅れる見込みですが、摘穂、花穂整形は適期を逃さないよう計画的に実施しましょう。摘穂は樹勢が落ち着いた樹ではできるだけ早めに行いますが、極端に強い新梢は生育抑制を図るため開花結実後の生育を見ながら行います。花穂整形は、花が1～2輪咲き始めた頃が適期で、遅くとも満開期までには終了します。栽培面積、労力等の条件で整形作業に長時間を要する場合は開花前5日頃から実施し、樹勢の落ち着いた樹から作業を行います。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病、斑点落葉病、輪紋病、腐らん病

6月上旬は褐斑病菌（子のう胞子）の飛散盛期となり重要防除時期にあたります。また、斑点落葉病、輪紋病も感染しやすい時期となるので、防除を徹底しましょう。また、近年腐らん病の発生が増加傾向にあるため、防除を徹底しましょう。

イ モモせん孔細菌病

せん孔細菌病の春型枝病斑の発生量は中通り北部で「やや多」（病害虫防除所）であり、本病の発生に注意が必要です。第一次伝染源の春型枝病斑や第二次伝染源の発病葉および果実を取り除くとともに、薬剤防除を徹底しましょう。果実被害が多い園地では、仕上げ摘果終了後速やかに袋かけを行います。

ウ ナシ黒星病

果樹研究所の「幸水」（無防除樹：6月1日現在）における新梢での発病は確認されませ

んでしたが、県内の発生量は「やや多」（病害虫防除所）であり、今後も引き続き注意が必要な状況です。罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を実施するとともに、薬剤防除を徹底しましょう。

（２）虫 害

ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキ越冬世代成虫の発生盛期は５月５半旬頃で、第１世代の防除適期は６月２半旬頃と推測されるので、この時期の防除を徹底しましょう。

イ モモハモグリガ

第１世代成虫の発生盛期は６月２半旬頃で、第２世代の防除適期は６月３半旬頃と推測されるので、この時期の防除を徹底しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

第１世代成虫の発生盛期は６月５半旬～７月１半旬頃で、第２世代の防除適期は７月１半旬～７月３半旬頃と推測されるので、この時期の防除を徹底しましょう。

エ カメムシ類

山間及び山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょ。

オ モモノゴマダラノメイガ

本種の発生が多い地域では、この時期の防除を徹底しましょう。

表１ 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第１世代 成虫盛期	第２世代 防除適期	第１世代 成虫盛期	第２世代 防除適期
２ 高い	６月７日	６月１２日	６月２４日	７月２日
平年並み	６月８日	６月１３日	６月２９日	７月８日
２ 低い	６月９日	６月１６日	７月５日	７月１５日

注）前世代の成虫発生盛期を起算日（モモハモグリガが４月２８日、ナシヒメシンクイが５月１０日）として、その後の気温を基に６月１日現在で推定した。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。